

TOSHIBA

2024年度 上期決算

2024年11月14日

株式会社 東芝

業績ハイライト

| (単位：億円) | FY23 上期 | FY24 上期 | FY23 上期実績との比較 |
|-------------------|---------|---------------|---------------|
| 売上高 | 14,977 | 16,219 | +1,242 |
| 営業損益(引当金等前) | 400 | 850 | +450 |
| ROS | 2.7% | 5.2% | +2.5%pt |
| 引当金等 ※1 | ▲177 | ▲145 | +32 |
| 営業損益 | 223 | 705 | +482 |
| ROS | 1.5% | 4.3% | +2.8%pt |
| 営業外損益 | ▲617 | 1,008 | +1,625 |
| うち、キオクシア ※2 持分法損益 | ▲761 | 630 | +1,391 |
| 税引前損益 | ▲394 | 1,713 | +2,107 |
| 当期純損益 | ▲521 | 1,163 | +1,684 |
| EBITDA ※3 | 716 | 1,222 | +506 |
| EBITDA margin | 4.8% | 7.5% | +2.7%pt |
| FCF ※4 | 1,073 | ▲136 | ▲1,209 |
| 営業CF | 1,389 | 654 | ▲735 |
| 投資CF | ▲316 | ▲790 | ▲474 |
| 期中平均為替レート(米ドル) | 140円 | 154円 | +14円 |

注:当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいております。

※1：製品保証引当金等、PJ案件コスト精査等 ※2：キオクシアホールディングス(株)の略 ※3：EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん減損

※4：フリー・キャッシュ・フローは、制限付預金の影響を除いています。

2024年度 上期決算についてのコメント

**営業損益 前年同期比 3.2倍 上期としては過去最高益^{※1}
経営改革効果 早くも寄与**

副社長執行役員の池谷 光司は2024年度上期業績について以下のように述べました。

- 第1四半期に続き、売上高は増収、引当前後の営業損益、当期純損益の**全てで黒字、且つ前年同期実績を大幅に上回る結果**となりました。
- 半導体等が市況回復の遅れにより減収となったものの、HDD他、発電システム等が好調に推移したほか、前年同期に赤字であったビルソリューションの改善により、**引当前では全セグメントで増収増益を実現**しました。
- 売価施策や固定費削減等の利益改善活動に取り組み、**引当後の営業損益は前年同期比3.2倍の705億円**になりました。これは、2018年度にメモリ事業を除いた事業ポートフォリオとなって以来、**上期で過去最高の業績**であり、**新体制における各種経営改革効果が寄与した結果**といえます。
- 当期純損益については、キオクシア^{※2}の業績改善による持分法損益の増益もあり、**第1四半期に続き対前同で大幅な増益**となりました。

2024年度 上期決算の補足説明

| 項目 | 概要 |
|---------|--|
| 売上高 | <ul style="list-style-type: none">半導体等が市況回復の遅れにより減収となったものの、HDD他、送変電・配電等、リテール&プリンティング、公共インフラ、鉄道・産業システム等の売上増により、売上高は全セグメントにおいて対前同で増収 |
| 営業損益 | <ul style="list-style-type: none">市況・為替影響等の外的要因のみならず、限界利益率・固定費比率の改善といった経営改革効果・自助努力により増益HDD他の製品保証引当金の減少と増収による増益、ビルソリューション（国内エレベータ）、送変電・配電等、発電システム（火力）などの増益により、営業損益は対前同で増益継続的に全社でリスク再精査を実施し、引当金等（▲145億円^{※1}対前同32億円減）を計上 |
| 当期純損益 | <ul style="list-style-type: none">キオクシア^{※2}の業績改善による持分法損益の増益等により、対前同で大幅増益 |
| FCF | <ul style="list-style-type: none">運転資金の改善等があったものの、税金等の影響により対前同で悪化 |
| 受注高/受注残 | <ul style="list-style-type: none">受注高は、エネルギーシステムの大型案件受注に伴い対前同で増加、受注残はエネルギーシステムの大型案件、インフラシステムの受注規模の増加に伴い対前同で増加。 受注高及び受注残の開示を始めた2018年度以降、最高水準で推移 |

※1：24/上期における計上額 ※2：キオクシアホールディングス(株)の略

注意事項

- この資料には、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定及び所信にもとづく見込みです。
- 当社グループはグローバル企業として市場環境等が異なる国や地域で広く事業活動を行っているため、実際の業績は、これに起因する多様なリスクや不確実性（経済動向、エレクトロニクス業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これに限りません。）により、当社の予測とは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。
- 注記が無い限り、表記の数値は全て連結ベースの6ヶ月累計です。
- 当社はキオクシアホールディングス(株)の経営に関与しておらず、同社の業績予想を入手していないため、当社グループの財政状態、経営成績またはキャッシュ・フローの見通しにはキオクシアホールディングス(株)の影響は含まれておりません。

TOSHIBA